



“生きる喜びを”実感できる 1年に

校長 大谷 京司



戦後 80 年となる今年 2025 年。昨年修学旅行で訪問した知覧特攻平和会館での語り部さんのお話や夜の振り返りでの 6 年生の子どもたちの感想等が思い返されます。

80 年というとおよそ人の一生分。何代も前の遠い話ではなく、ほんの少し前という印象です。そんな割と最近に、自ら操縦する戦闘機を敵艦に命中させるという決死の任務を遂行せざるを得なかった時代があったことを改めて考えさせられます。子どもたちの感想からは、後悔しないように生きたい、人にやさしく生きたい、自分を大切にしたいなどが寄せられましたが、これから 80 年後、新たな戦争が起きない保障はどこにもありません。今の子どもたちが過去の歴史を振り返りながら、自分で考え、様々な考えをもつ人々と共に暮らしていく世の中を創っていかねばなりません。

本校では、子どもたちが「感じて 考えて 創る」という学びのサイクルの中で、教育理念に“生きる喜び”という言葉掲げています。子どもたちが日々生きる喜びを感じる中で、二度と過ちを繰り返さない優しい社会を創り出す担い手として成長してほしいと考えています。

クリスマス会

12 月 14 日(土)のクリスマス会では、高学年のハンドベルに始まり、全員合唱・合奏、そして現在海外で活躍されている先生方にもオンラインで登場していただき、カナダやシンガポールのクイズに答えながら会が進行していきました。

1・2 年生は初めて挑戦する英語劇、3・4 年生は自作のクリスマスオーナメントを英語で紹介、5・6 年生は世界各国のクリスマスの様子を英語で発表しました。

子どもたちからオリジナルの感謝を伝えるクリスマスカードがお父さんお母さんに渡されると、保護者の皆さんからもびっくりするような素敵なプレゼントが…

最後は会場のみみんなで「サンタが街にやってくる」を手話を交えて歌い、終始あたたかい雰囲気にもまれて会が閉じられました。



イタリアのクリスマス料理に挑戦

「くらし」の授業でも海外を意識して、イタリアのパスタ料理(トルテッリーニ)とデザート(パネトーネ)を縦割りグループで作りました。

切る・包む・煮るなど様々な工程をリーダーがグループメンバーに的確に指示して、どのグループもやさしいイタリアの家庭料理を味わうことができました。



雅楽演奏会



12月5日(木)、普段は滅多に聞くことができない雅楽の演奏を聞く機会に恵まれました。

演奏者の二人はともに学生さんで、神職に関連した道を志しており、そうした中で、雅楽のすばらしさを多くの人にも知ってもらいたいという気持ちから、今回の演奏会につながりました。

普段聞く楽器とは全く異なる神秘的な音色に子どもたちも驚きながら聞き入っていました。二人からは楽器のことや吹き方などを分かりやすく教えていた

だいた他、最後には楽器に触らせてくれたり、烏帽子を被らせてくれたりと、子どもたちも大喜びで、雅楽に興味をもつきっかけになったことと思います。

認知症サポーター養成講座

今回は人権週間に、厚木市玉川・森の里地域包括支援センターの方々をお招きして、小学生を対象に認知症サポーター養成講座を開いていただきました。

お年寄りの方で認知症を発症する割合も少なくない中、認知症とはどのようなものなのか正しく理解したうえで、小学生にもできるサポートの仕方などを学びました。

ビデオやクイズ、人形劇など、子どもたちにもわかりやすいように丁寧に教えていただき、子どもたちもどのような声掛けや行動が適切な支援なのかということ具体的に理解することができたようです。

講習が終わると、最後に一人ひとりにオレンジリボンが配られました。これは認知症を正しく理解したあなたに地域の中でサポーターとして活躍してくださいという願いが込められたものです。地域の中で、優しい声掛けができる小学生として成長してほしいと思います。

